

【注釈】

『古本説話集 全注釈』大齋院事（おほらさいまんのじ）（第一）

其の四（類話・参考文献および補遺）

椎葉 富美  
安倍 素子  
川浪 玲子  
福田 益和  
山口 康子

*Kohonsetsuwashu Zenchushaku Osainnokoto : IV*

Fumi SHIBA  
Motoko ABE  
Reiko KAWANAMI  
Yoshikazu FUKUDA  
Yasuko YAMAGUCHI

## 緒言

『古本説話集』(以下、『古本』『本集』と略称することがある)の冒頭話「大齋院事」(第一)について先に、本文およびその注釈を「其の一」「其の二」「其の三」と、三回に分けて発表した。本稿は「其の四」として、前稿までに、紙幅の関係上掲載できなかった部分(凡例七：類話、凡例九：参考文献)について述べるものである。

さらに、本文中に記述し得なかった、本集全体に関わる三項目(本文中の符号・書き入れについて、注釈における訓みの問題、冒頭話「大齋院事」の本集全体における象徴的意義)を「補遺」として述べる。

なお三年にわたって、順次発表した際、先学諸氏のご助言、ご指摘を、多々頂戴した。ここに記して感謝申し上げる。その都度、修正すべきは修正して稿を進めたため、本文や口語訳の記述に一貫性を欠く結果となった。分割発表の不備を補正するため、ここに、第一話全文の本文および口語訳を一括提示する。すなわち、本稿の構成は次のとおりである。

一、本文と口語訳 上段に本文、下段に口語訳を記す。

二、第一話の類話について(凡例七)

必ずしも、定まっているとはいえない「類話」の定義を改めて考察し、その枠組みに従って、関係説話を整理する。

三、参考文献(凡例九)

必要な参考文献は、できる限り、該当箇所に書き入れたが、記載できなかったものもある。参照の便のため、ここにまとめて記述する。

四、補遺

①本文中の符号・書き入れについて

本文五丁オ2に「みかどのいあまたたびくかはらせ給へど」とあり、「たびく」の最初の「た」の傍に付せられた「✓」符号について、「其の一」では、先行諸書の扱いを紹介し、文意としては変わらないという観点から深く追求しなかった。本文中の符号・書き入れ全体を俯瞰・検討した

上での判断が必要と考えたからである。今回、本集全体の書き込みを検討し、「✓」符号についての見解を述べ、先行諸書において挿れている本文の訓みを明らかにする。

②注釈における訓みの問題

本注釈においては、国語学的な観点を取り入れることを目指し、訓みについても根拠を求めてきた。二箇所に分けて記載されている、「目錄表題」の変体漢文の訓み、漢字平仮名交りの和文体の本文の訓み、漢字表記の字音語の訓みなどについてそれぞれ検討した。なお、仮名書き字音語の表記に関しても、基準を模索した。本稿の立場について記述する。

③冒頭話「大齋院事」の本集全体における象徴的意義

第一話は、本文行数で127行に及び、最長の第五十八話(21行、わらしべ長者譚)、それにつぐ第二十八話(17行、曲殿姫君話、第六十五話(146行、信貴山縁起、飛倉譚)について、第四番目に長い説話である。ちなみに、100行を越す説話は、以上4話の他には、巻末第七十話(104行、関寺牛弘譚)を含め、全70話中5話しか存在しない。その中で第一話は、本集の他の説話と、根本的にその構成を異にしている。その点を明らかにして、本話の特性を見究め、大齋院説話が冒頭におかれている点について、大齋院の人物像とその背景を検討し直した。

また、本集と『今昔物語集』との関係について異質なものとして論じることが多いが、その共通説話の多さ、文章表現上の類似・一致から考えても、無関係なものとは到底考えられない。第一話の場合は、『今昔』の本文の中に『大鏡』の記述をはめ込んだ構成になっている。両者を細かく分析してみると、さらに緊密な関係性が指摘できる。

関係論考に示されている様々な点も考慮に入れて、第一話の象徴的意義について述べたい。

以上のような趣旨をもって、以下、論を展開する。

凡例

一 表題

本集には、説話表題（説話本文の前に記載された表題）は見られないので、目録表題をそれぞれの該当説話本文の前に掲げ、訓読を振り仮名の形で示す。その根拠については、各説話の口語訳の次に、項目を立てて述べる。また、川口久雄校訂『梅澤本 古本説話集』（岩波文庫・一九五五年）以下の研究書に  
ならい、説話の話番号を（ ）をつけて付し、（第二）（第二）の形で示す。

二 本文

1 底本は、東京国立博物館所蔵（梅澤記念館・文化庁旧蔵）『古本説話集』を用いた。許可を得て直接撮影した写真の他、『梅澤本 古本説話集』（貴重古典籍刊行会編、貴重古典籍刊行会発行・一九五五年）、『古典資料類従 6 梅沢本古本説話集』（川口久雄解説・勉誠社・一九七七年）、『勉誠社文庫124 古本説話集』（川口久雄解説・勉誠社・一九八五年）、「e 國寶 国立博物館所蔵 国宝・重要文化財」([http://www.emuseum.jp/top?d\\_lang=ja](http://www.emuseum.jp/top?d_lang=ja))を参照する。

2 底本の一丁を二頁として、表をオ・裏をウと表記し、行数を本文の上計算用数字で記す。なお、勉誠社文庫の頁数を（ ）で示す。

3 原文の漢字はそのまま漢字で表記し、原文に近い字体を選ぶ。

4 訓みをつけるときは、歴史的仮名遣いを用い（ ）で囲む。

例 おほさいみん（なまひ）  
大齋院・給て

5 繰り返し符号・見せ消し等は原文どおり表記し、必要に応じて注をつけるか、「語釈・語法」の項で説明する。

6 本文の仮名表記を、漢字表記にするときは、振り仮名として原文の仮名をつけた。表記する漢字は、現行の漢字とする。 例 おほの 大殿・齋院 なを

7 仮名違いは、右側に正用を【】で示す。 例 なを

8 必要に応じて句読点・濁点・引用符をつけ、会話文には「」をつける。

9 一語が二行にまたがる場合は、どちらかの行にまとめる。

三 対照説話

対照すべき説話を、本集本文の行切りに合わせて記載する。テキストは、「新日本古典文学大系」など、一般的なものを選ぶ。

例 九丁オ7〜8 物語ものがたり

四 口語訳

逐語訳を心がけ、必要に応じて適宜主語等を（ ）を付して補う。

五 語釈・語法

丁の表（オ）裏（ウ）ごとに、該当箇所の行数を算用数字で示し、特に語学的視点を取り入れるよう心がける。

六 補説

特に詳述する必要がある問題についての考察を記す。

七 類話

紙幅の都合上、各話の末尾につける予定である。

八 参照テキスト

略号とテキストは次のとおりである。

岩波文『梅澤本 古本説話集』川口久雄校訂・岩波文庫・一九五五年

全書『古本説話集』日本古典全書・川口久雄校註・朝日新聞社・一九六七年

総索引『古本説話集総索引』山内洋一郎編・風間書房・一九六九年

全註解『古本説話集全註解』高橋貢・有精堂・一九八五年

新大系『古本説話集』新日本古典文学大系42・『宇治拾遺物語』と併録・

中村義雄、小内一明校注・岩波書店・一九九〇年

全訳注『古本説話集 上下』高橋貢全訳注・講談社学術文庫・二〇〇一年

九 参考文献

参考にした文献については、できる限り該当部分に書き入れる。記載できなかったものは、各話の末尾につける予定である。

大齋院事（第二）

【五丁才】（一二三頁）

- 1 今は昔、大齋院と申は、村上上の十の宮に
- 2 おはします。御門のいあまたたびく、替はらせ
- 3 給へど、この齋院は、動きなくておはしまし
- 4 けり。齋宮・齋院は、佛・經忌ませたまふに、この
- 5 齋院は、佛・經をさへ崇め申させたまひて、
- 6 朝ことの御念誦、欠、せたまはず、三尺の阿弥陀
- 7 仏に向かひまいらせさせたまひて、法華經
- 8 を明け暮れ誦ませ給けりと、人申伝へたり。
- 9 賀茂祭の日、「二条の大路に、そこら集ま
- 10 りたる人、さながらともに仏に成らん」と誓

【五丁ウ】（二四頁）

- 1 はせ給けるこそ、なをあさましく。さて、この世の
- 2 御栄華を、と、のへさせたまはぬかは。御禊より
- 3 はじめ、三日の作法、出だし車などのめでたさ
- 4 は。御心様、御有様、大方、優にらうくし
- 5 くをはしましたるぞかし。宇治殿の、兵衛佐に
- 6 て御禊の御前せさせたまひたりけるに、いと
- 7 幼くおはしませば、例は本院に帰らせ給て
- 8 人くゝに祿などたまはするを、これは河原より
- 9 出でさせたまひしかば、思ひかけぬ事にて、
- 10 さる御心設けもなかりければ、御前に召し有て、

【六丁才】（二五頁）

- 1 御対面せさせたまひて、たてまつりたりける

今は昔、大齋院と申しあげる（方）は、村上天皇の第十皇女でいらつしやる。天皇が何度も何度もお替わりに

なられたが、この齋院は替わることがなくていらつしやつ

た。齋宮や齋院は仏像や經典を忌みお憚りになられるが、この

齋院は仏像や經典までも敬い申しあげなざつて、

毎朝の御念誦をお欠かしにならず、三尺の阿弥陀

仏に向かい申し上げなざつて、『法華經』

を朝に夕にお誦みになつたと、人々が申し伝えている（ということだ）。

賀茂祭の日、「二条大路に多く集まつた人々と、皆一緒に仏に成りましょう」と（大

齋院が）誓願

なざつたことは、やはり驚くべきことであつた。そうはいつても、この現世での

御栄華を欠けることなく備えていらつしやらないというわけではない。御禊の儀

式をはじめとして、三が日の作法、出だし車などの何と見事なこと

か。お氣立てや振舞いが総じて優美な上に、品位ある円熟さが

おありであることよ。宇治殿（頼通公）が、兵衛佐で

御禊の前駆をなざつた時に、（宇治殿は）たいそう

幼くていらつしやつたため、（大齋院は）いつもは本院にお帰りになつて

人々に祝儀などを下さるのだが、宇治殿が賀茂河原から

わが家にお戻りになつたが、それは予想もしなかつたことで、

そのようなご準備もなかつたので、（宇治殿を）御前にお召しになつて

対面なざつて、身につけておられた

- 2 御小桂をぞ、かづけたてまつらせ給ける。入道
- 3 殿聞かせ給て、「いとをかくし給へるかな。祿な
- 4 からんも便なく、取りにやりたらむもほど経ぬべ
- 5 ければ、とりわき給へるさまを見せたまへる也。
- 6 えせ物は、え思ひよらじかし」とぞ、殿は申させ
- 7 たまひける。後一条院・後朱雀院、まだ宮たちに
- 8 て、幼くおはしましけると、祭見せたてまつ
- 9 らせ給けるに、御棧敷の前過ぎさせ給ほど、
- 10 殿、御膝に、二所ながら据ゑたてまつらせ

〔六丁ウ〕（二六頁）

- 1 給て、「この宮たち見たてまつらせ給へ」と申させ
  - 2 たまへば、御輿の帷より、あか色の御扇
  - 3 のつまをこそ差し出ださせ給たりけれ。殿をはじ
  - 4 めまいらせて、「なを心ばせめでたくおはする院なり
  - 5 や。かゝるしるしを見せさせたまはずは、いかでか
  - 6 見たてまつらせたまふとも知らまし」とぞ、感じ
  - 7 たてまつらせ給ける。院より大殿に聞こゑさせ
  - 8 給ける。
  - 9 ひかり出づるあふひのかげを見てしかげ
  - 10 年経にけるもうれしかりけり
- 〔七丁オ〕（二七頁）
- 1 御返
  - 2 もろかづら二葉ながらも君にかく
  - 3 あふひや神のしるしなるらん

御小桂を、お授け申し上げなされた。（そのことを）入道殿（道長公）がお聞きになつて、「たいそう風情のあることをなさいましたね。祝儀を出さないのも不都合ですし、（本院へ）取りにやるにしても時間がかかつてしまふでしょうから、特別のお志の程をお見せになったものです。

いい加減な人には思いつけないことですよ」と、入道殿は（大齋院のことを）申し上げなされた。後一条院・後朱雀院がまだ宮様たち

で、幼くていらつしやうたとき、賀茂祭をお見せ申し上げなされたが、（お二方の）御棧敷の前を（大齋院のお輿が）お通りになるあいだ、

入道殿（道長公）のお膝にお二方とも座らせ申し上げ

なされた、（道長公が大齋院に）「この宮様たちを見申し上げなされたください」と

申し上げなされると、御輿の垂れ布から、赤色

の御扇の端を差し出しなされた。入道殿をはじめと

いたしまして（居合わせた人たちが）「やはり心配りがすばらしくていらつしやる院ですね。このような合図をお見せにならなかつたならば、どうして（大齋院が）

見申し上げなされたということがわかりましょうか」と、感心申し上げなされた。院（大齋院）から大殿（道長公）に申し上げ

なされた歌は

ひかりかがやく二葉葵のような、お二方の日嗣のみこのお姿を見ましたので、  
年月が経つて歳を重ねたこともうれしいことです

（大殿の）御返歌は

もろかづらを頭に懸ける葵祭の日に、幼いながらもお二方の日嗣のみこが、  
あなたにこのようにお逢いできるのは賀茂の神のご利益なのでしょう

- 4 めでたく、心にくく、をかしくおはしませば、上達部・
- 5 殿上人、絶えずまいりたまへば、たゆみなく、う
- 6 ち解けずのみありければ、「齋院ばかりのところは
- 7 なし」と、世にはづかしく心にき事に申つ、
- 8 まいりあひたりけるに、世もむげに末に
- 9 なり、院の御年もいたく老させたまひに
- 10 たれば、今はことにまいる人もなし。人も

〔七丁ウ〕（二八頁）

- 1 まいらねば、院の御有様もうち解けにたらん、
  - 2 若く盛りなりし人くもみな老失せもていぬら
  - 3 ん、心にくからで、まいる人もなきに、後一条院
  - 4 御時に、雲林院不断の念佛は九月十日
  - 5 のほどなれば、殿上人四五人ばかり、果ての夜、月の
  - 6 えもいはず明かきに、「念佛にあひに」とて、雲
  - 7 林院に行きて、丑の刻ばかりに帰るに、
  - 8 齋院の東の御門の、細目に開きた
  - 9 れば、そのころの殿上人・蔵人は、齋院の中も、
  - 10 はかくしく見ず、知らねば、「かゝるついでに院の
- 〔八丁才〕（二九頁）
- 1 うちみそかに見む」と言ひて、入りぬ。夜のふけに
  - 2 たれば、ひとかけもせず。東の堀の戸より
  - 3 入りて、東の対の北面の軒に、
  - 4 みそかに居て見れば、御前の前栽、心にま

（大齋院は）すばらしく、奥ゆかしく、興趣に富んでおられ、上達部や殿上人たちが絶えることなく参上なさっているの、（御所の人々は）絶えず気を張りつめてばかりでいたので、（上達部や殿上人は）「齋院（の御所）ほど（すばらしい）所はない」と、たいそう立派で奥ゆかしいことと申し上げては、参上しあっていたが、世もすっかり末になり、院も大変年老いてしまわれたので、今では特に参上する人もいない。だれも

参上しないので、院の御様子に緊張感がみられなくなってしまったのであろう、（また）若くて意気さかんであった女房たちもだんだん年をとりおそばにいなかつてしまったからだろう、気持ちが悪かなくなつてしまひ、参上する人もいなかつたが、後一条天皇の御代のこと、雲林院の不断の念佛は九月十日の頃なので、殿上人四、五人ほどが、その念仏の最後の夜、月がなんともいえず明るい時に、「念仏をおがみに参ろう」といつて雲

林院に行き、丑の時刻ごろに帰る際、齋院の東側の御門が細目にあいていたので、その頃の殿上人や蔵人は、齋院の中もはつきりと見たことはなく知らなため、「このような機会に、齋院の

中をこっそり見ていこう」と言つて、中に入った。夜がふけているので、人影もない。東側の堀の入り口から入つて、東の対屋の北側の軒下に入つて、こっそりと座つて見ると、御前の庭先の植え込みは勝手気ま

- 5 かせて高く生おびいしげりたり。「つくるふ人も
  - 6 なきにや」と、あはれに見ゆ。露は月の光に照ら
  - 7 されてきらめきわたり、虫の声こゑくさまく
  - 8 に聞こゆ。遣水の音やみづのね、のどやかに流れたり。
  - 9 そのほど、露つゆ音ねする人なし。船岡のおろ
  - 10 しの風、冷や、かに吹きよれば、御前の御簾の
- 【八丁ウ】（二〇頁）
- 1 少しうち揺るぐにつけて、薫物たきもの、香の、え
  - 2 もいはず香ばしく、冷や、かに匂ひいでたる香を
  - 3 かぐに、御格子みかかしは下ろされたらんに、薫物たきもの、匂
  - 4 ひのはなやかなれば、「いかなるにかあらむ」と思ひて、
  - 5 見やれば、風に吹かれて、御几帳みこしやう少し
  - 6 見ゆ。御格子みかかしもいまだ下ろされぬなりけり。
  - 7 「月御覧らむずとて、おはしましけるま、にや」
  - 8 と思ふほどに、奥深きおくふか、箏びやうの平調ひやうてう
  - 9 に調しらめられたる音の、ほのかに聞こゆる
  - 10 に、「さは、かゝる事も世にはあるなりけり」と、あさま
- 【九丁オ】（二二頁）
- 1 しくおほゆ。よきほどに調しらめられて、音ねもせ
  - 2 ずなりぬれば、「今は内裏うちへ帰りまいりなん」と思ふほど
  - 3 に、人ひとの言ことふ様よう、「かくおかしく、めでたき御有様ごさま
  - 4 を、「人聞ひとき、けり」と思おもひ召めされん料れうに、知ら
  - 5 ればや」など言いへば、「げにさもある事也」とて、寝殿しむの

まに高く生おびい茂さかっている。「手入れをする人もいないのだろうか」と、気の毒あはれに思おもわれる。露は月光に照らされて辺り一面きらきらと輝きらいていて、たくさんおほくの虫の音がさまさま

に聞こえる。遣り水の音は静かに流れている。

その間、少しも音をたてる人はいない。船岡山から吹き

おろす風が、冷たく吹いているので、お部屋おふしやの前の御簾みすだが

少しゆれ動くに従って、薫たきき物の香かりがなんとも

いえずよくかおり、冷ややかに（吹く風に）ただよってくる香りを

かぐにつけても、御格子みかかしは下ろしていらつしやるであらうのに、薫物たきものの香

りがとてもかぐわしいので、「どうしてなのだろう」と思おもって

目をやると、（御簾みすだが）風に吹かれて御几帳みこしやうが少し

見える。なんと、御格子みかかしもいまだ下ろしていらつしやらないのであった。

「大齋院だいさいいんは）月を御覧らむになるおつもりで、そのままでいらつしやったのであろう

か」と思おもううちに、深みのある平調ひやうてう

に調整てんせいされている。箏びやうの音が、かすかに聞こえる

ので、「そうか、このようなこともこの世にはあるのだなあ」と、（殿上人てんじゆうじんたち

は）すばらしく思おもわれる。ちようどよい長さに奏そうでられて、箏びやうの音もし

なくなつたので、「そろそろ内裏うちへ帰参かへりましよう」と思おもう時

に、人々が言うには、「このように趣深く、すばらしい御様子

を、「他人ひとが聞いた」と（大齋院だいさいいんが）おわかりになるために、（自分おれたちが聞いて

いることを齋院御所さいいんごしょの人に）知られたいものだ」など言うので、「なるほどそれも

そうだ」と言いって、寝殿しむの



- 6 丑寅うしごの隅すみの妻戸つまどには、人のまいりて、女房にようばに  
会あひて、もの言いふ所也、住吉すみよしの姫君ひめの物語ものがたり
- 7 の障子さうじ、そこには立たてられたる、そなたに
- 8 人二人ふたりばかり歩あゆみ寄よりて、気色けしきばめば、
- 9 かねてより女房二人ふたり許ほかり、物語ものがたりして居ゐて

〔九丁ウ〕(二三頁)

- 1 たりけり。殿上人とのうぢ、女房にようば起おきたらむとも知らぬに、
  - 2 かく居あれば、思おもひかけずおぼゆ。女房にようばは夜よ
  - 3 より物語ものがたりして、月の明あか、りければ、「居あ明あか
  - 4 さむ」と思おもひて居ゐたるに、かく思おもひかけぬ
  - 5 人のまいりたれば、いみじくあはれに思おもひたる。
  - 6 気色けしきばかり奥おくの方に碁石ごいし筒づつに碁石ごいしを入いる、
  - 7 音ねす。御前ごまへにも、昔むかしおぼしめし出でて、あはれにお
  - 8 ぼしけむかし。昔むかしの殿上人とのうぢは、常つねにまいり
  - 9 つ、をかしき遊あそびなど箏ことう・琵琶びわも常つねに弾ひきける
  - 10 を、いまはさやうの事ことする人もなければ、ま
- 〔十丁オ〕(二三頁)
- 1 いる人もなし。たまたまくまいれど、さやうの事こと
  - 2 する人もなきを、くちをしくおほしめされけ
  - 3 るに、今宵こんよひの月の明あかければ、むかしおほし
  - 4 出でてられて、ものあはれによるづながめさせ給たまへて、
  - 5 御物語おんものがたりなどして御おんとのごもらざりけるに、
  - 6 夜よいたう更あげにたれば、物語ものがたりしつる人ひとくも、

丑寅の隅の妻戸には、人が参上し、女房に  
会って、用件を言う場所であり、「住吉の姫君の物語」  
を描いた障子がそこに立てられてあるが、そちらに  
人が二人ほど歩み寄って、それとなくいることを知らせると、  
その前から女房が二人ほど話をして座って

いた。殿上人は、女房が起きているだろうとも思わなかったが、このように座つ  
ていたので、思いがけなく感じる。女房は夜

から(一晩中)話をしていて、月が明るかったので、「寝ないで夜を明か  
そう」と思つて座っていたところ、このように思いがけない

人が参上したので、たいそう趣深く思つた。

ほんのすこしだけ奥の方で碁筒に碁石を入れる

音がする。大齋院も昔を思い出しなざつて、しみじみとした

思いをされていたのである。昔の殿上人は、常に(齋院御所に)参上

しては、趣のある音楽など箏や琵琶も常にかきならした

が、今ではそのようなことをする人もいないので、(齋院御所に)参

上する人もいない。たまに参上しても、そのようなことを

する人もいないのを、(大齋院は)残念に思ひになつてい

たが、今夜の月が明るいので、昔のことを自然と思ひ

出しになつて、しみじみといろいろ物思ひをなさつて、

(女房達と)お話などしておやすみにならずにいらつしやると、

夜がたいそう更けてしまったので、おしゃべりしていた女房たちも



- 7 御前（おまへ）にやがてうた、ねに寝（ね）にけり。わが御目（め）は覚（さ）めさせ給（たま）たりければ、御箏（おんそう）を手（て）さみに調（しら）めさせ給（たま）たりけるほどに、かく人（ひと）くまいりたれば、昔（むかし）おぼえてなむ、あはれに思（おも）はしめしける。「この
  - 10 おぼえてなむ、あはれに思（おも）はしめしける。「この
- 【十丁ウ】（二四頁）
- 1 人（ひと）くは、かやうのわざすこしす」ときこしめしたる
  - 2 にやあらん、御箏（おんそう）・琵琶（ひば）など出（い）だせ給（たま）へれば、わざとに
  - 3 はなくて、調（しら）め合（あ）はせつ、もの一二つばかり
  - 4 づ、弾（ひ）きて、夜（よ）、明（あ）け方（かた）になりぬれば、内裏（うち）へ帰（かへ）り
  - 5 いらぬ。殿上（てんじやう）にて、あはれにやさしくおもしろかり
  - 6 つるよしを語（かた）れば、まいらぬ人はいみじく
  - 7 ちをしがりけり。さて、その年（とし）の冬（ふゆ）をりさせ
  - 8 給（たま）て、室町（むろまち）なる所（ところ）におはしまして、三井寺（さんせいじ）
  - 9 にて尼（あま）にならせ給（たま）にける後は、ひとへに
  - 10 御（ご）をこなひをせさせ給（たま）つ、終（おは）はりいみじくめで
- 【十一丁オ】（二五頁）
- 1 たく、尊（たう）くてなむ、失（う）せさせ給（たま）にける。」「この世
  - 2 は、めでたく心（こゝろ）にく、優（い）へにて過（す）させ給（たま）へるに、
  - 3 後の世（のちのよ）いか、』と思（おも）ひまいらせしに、ひたぶるに
  - 4 御（ご）行（ぎやう）ひたゆみなくせさせ給（たま）ひて、御有（ごあり）様（さま）、
  - 5 あらには、極楽（ごくらく）疑（うたが）ひなく、めでたくて失（う）せさせ
  - 6 給（たま）ひしかば、『一定（いぢやう）極楽（ごくらく）へ参（まゐ）らせ給（たま）ぬらん』
  - 7 となむ、入道（にゅうだう）の中將（ちゆうしやう）よろこび給（たま）し」と、語（かた）り給（たま）し。

（大齋院の）御前で、そのままうたた寝してしまった。大齋院御自身は御目がさめていらっしゃったので、御箏を手さびに弾いていらっしゃった時に、このように殿上人たちが参上したので、昔が

思い出されてしみじみとしたお気持ちになられた。「この

人々は、このような音楽の素養がすこしはある」とお思いになったのであろうか、御箏・琵琶などをお出しになると、ことさらに

ではなくて、楽器の音の調子を合わせては、それぞれが一、二曲

ずつ弾いて、明け方近くになったので、（殿上人たちは）宮中に帰

参した。殿上の間で、しみじみと優雅で趣があつ

たことを語ると、参上しない人は大変

残念がった。ところで、その年の冬、（大齋院は）御退下になつて、室町という所

にいらっしゃつて、三井寺

で尼におなりになつた後は、一途に

お勤めをなさり続けて、最期はたいそうお見事でご立派

な様子でお亡くなりになつた。」「現世

では、すばらしく心ひかれるさまで、風流なくらしをしてお過ごしになつたにつ

けても、来世はどうであろうか』と思ひ申し上げたが、（大齋院は）ひたすら御修

行を気をゆるめることなくなさつて、（御臨終の）御様子は、

あきらかに極楽（に往生なさるのは）疑いなく、見事な御様子でお亡くなりになつたので、『確かに極楽へお行きになつたことであらう』

と、入道の中將はお喜びになつた」と語りなされた。

類話 (凡例七)

『古本説話集』と他作品との関係は、諸氏によってさまざまな指摘があるが、その関連度合いを示すために、以下のように定義した。

- 【A同 話】物語の展開はほぼ一致し、表現も大半一致をみる。  
 【B類似説話】物語の展開・表現ともに、一部分は一致をみる。  
 【C関連説話】物語の展開・表現ともに、一致をみることは少ないが、何らかの関わりがみられる。

この定義に従って、本話に関わりのある作品を提示する。

まず、本話は次のように五つの場面(『全注釈 其の三補説』一・一五頁参照)に分けることができる。なお、( )内の数字は各場面の行数である。

- 【第一場面】最初〜五丁ウ1「なをあさましく」(11行)  
 大齋院の来歴を述べ、仏教を信心する逸話を紹介する。  
 【第二場面】五丁ウ1「さて」〜六丁オ7「申させたまひける」(17行)  
 御禊の前駆をした幼い宇治殿(藤原頼通)に、大齋院がその場で臨機応変に禄を授けた対応を、藤原道長が褒める。  
 【第三場面】六丁オ7「後一条院」〜七丁オ3「しるしなるらん」(17行)  
 賀茂祭の日、大齋院は、道長の抱いている御一条院・御朱雀院を御覧になったことを、扇の棲を差し出すことで示す。大齋院の心遣いに道長は感心する。  
 【第四場面】七丁オ4「めでたく」〜十丁ウ7「くちをしがりけり」(74行)  
 大齋院は老年になり、齋院御所を訪れる人もなくなった。雲林院の

不断念仏最終日、殿上人四、五人がたまたま大齋院御所を訪れる。等の音がするなど趣深い様子であり、優雅で風流な一夜を過ごした。  
 【第五場面】十丁ウ7「さて」〜最後(11行)  
 大齋院は齋院を退下した。三井寺で尼になったあと、一途に仏道修行し、立派な最期を迎えた。

場面ごとに関わりのある作品は、以下のとおりである。主に、『大鏡』に関わりのある部分を前半、『今昔』に関わりのある部分を後半とした。

| 後半                       | 前半   |
|--------------------------|--|
| 第五場面<br>A『今昔物語集 四』卷十九第十七 | 第一場面<br>A『大鏡』師輔・A『今昔物語集 四』卷十九第十七                             |
|                          | 第二場面<br>A『大鏡』師輔  |
|                          | 第三場面<br>A『大鏡』師輔<br>B『後拾遺和歌集』卷十九雑五・B『采花物語』はつ花                 |
|                          | 第四場面<br>A『今昔物語集 四』卷十九第十七・A『無名草子』<br>B『今鏡』七「有栖川」・C『枕草子』心にくきもの |

・その他、以下の作品に大齋院関係の記事がみられる。

- 『賀茂齋院記』・『賀茂皇大神宮記』・『大齋院前御集』・『大齋院御集』・『発心和歌集』・『古今著聞集』卷五和歌第六・『今昔物語集 四』卷第二十四第五十七・『十訓抄』下十ノ三十七・『金葉和歌集』卷第十・『続古事談』卷第一  
 一一一・『俊頼髓脳』俊秘抄卷下・『左経記』・『日本紀略』・『古本説話集』  
 第九話・『古本説話集』第三十七話・『古本説話集』第四十二話・『古本説話集』第四十三話

参考文献（凡例九）

本話の『全注釈』其の一～四を執筆するにあたっては、以下の文献を参考にした（『参考辞典等』は、「其の二」～「其の三」の該当箇所に記載したものは除外した）。

【参考文献】および【参考論文】は、参照の便のためすべて記載する。

【参考辞典等】

（書名の五十音順）

- ・『延喜式』（黒板勝美、国史大系刊行会編『新訂増補版 国史大系 第26巻』丸山次郎校訂・一九六五年）
- ・『公事根源』（国立国会図書館デジタルコレクション・<http://dl.ndl.go.jp/>）
- ・『言海』（大槻文彦、ちくま学芸文庫・筑摩書房・二〇〇四年）
- ・『標註訂正 康熙字典 復刻』（渡部温編・講談社・一九七七年）
- ・『江家次第』（国立国会図書館デジタルコレクション・<http://dl.ndl.go.jp/>）
- ・『国語学研究事典』（佐藤喜代治編・明治書院・一九七七年）
- ・『実例詳解 古典文法総覧』（小田勝・和泉書院・二〇一五年）
- ・『拾芥抄』（国立国会図書館デジタルコレクション・<http://dl.ndl.go.jp/>）
- ・『大漢和辞典』（全十三巻・諸橋轍次・大修館書店・二〇〇〇年）
- ・『日本語文法大辞典』（山口明穂、秋本守英編・明治書院・二〇〇一年）
- ・『平安時代補任及び女人綜覧』（本多伊平編・笠間索引叢刊101・一九九二年）
- ・『有職故実 日本文学の背景 改訂版』（塙選書8・河幡美英・塙書房・一九七一年）
- ・『有職故実大辞典』（鈴木敬三・吉川弘文館・一九九五年）

【参考文献】

（著者の五十音順）

- ・秋永一枝『古今和歌集声点本の研究 資料編・索引編・研究篇上』（校倉書房・一九七二、一九七四、一九八〇年）

- ・家永三郎『上代倭絵全史』（名著刊行会・一九九八年）
- ・伊坂淳一『仮名文における話線の断絶と終止形・連体形の機能』

（『小松英雄博士退官記念日本語論集』三晋堂・一九九三年所収）

- ・石原昭平『古本説話集の王朝物について——その説話的な評価——』

（東横学園女子短期大学国文学会編『東横国文学』9・一九七五年一月）

- ・岩井良雄『日本語法史 奈良・平安時代編』（笠間書院・一九七〇年）
- ・岩井良雄『日本語法史 鎌倉時代編』（笠間書院・一九七一年）

- ・岩佐美代子『文机談 全注釈』（笠間書院・二〇〇七年）

- ・大野晋『係り結びの研究』（岩波書店・一九九三年）

- ・岡崎知子『平安朝女流作家の研究』（法蔵館・一九六七年）

- ・岡野弘彦『賀茂社——上賀茂神社・下鴨神社（日本の古社）』（淡交社・二〇〇四年）

- ・春日和男『存在詞に関する研究』（風間書房・一九六八年）

- ・神鷹徳治『白氏文集は（もんじゅう）か（ぶんしゅう）か』

（游学社・二〇一二年）

- ・木之下正雄『平安女流文学のことば』（至文堂・一九六八年）

- ・倉本一宏『御堂関白記 上中下』（全現代語訳・講談社学術文庫・二〇〇九年）

- ・後藤祥子編『王朝文学と斎宮・斎院』（平安文学と隣接諸学6・二〇〇九年）

- ・小林賢章『アカツキの研究 平安人の時間』（和泉書院・二〇〇三年）

- ・小林賢章『暁』の謎を解く平安人の時間表現（角川学芸出版・二〇一三年）

- ・今野達『新注今昔物語集選』（大修館書店・一九六九年）

- ・桜井光昭『敬語論集——古代と現代』（明治書院・一九八三年）

- ・沢田名垂『家屋雑考』（廣文庫第十三冊・物集高見編・廣文庫刊行会・一九一六年）

- ・築島裕『平安時代語新論』（東京大学出版会・一九六九年）

- ・坪井美樹『日本語活用体系の変遷 増訂版』（笠間書院・二〇〇一年）

- ・所京子『斎王和歌文学の史的研究』（国書刊行会・一九八九年）

- ・所京子『斎王研究の史的展開』（勉誠出版・二〇一七年）

- ・豊永聡美『天皇の音楽史 古代・中世の帝王学』（吉川弘文館・二〇一七年）
  - ・中村清兄『日本の扇』（日本の美と教養・河原書店・一九四二年）
  - ・中村清兄『扇と扇絵』（日本の美と教養23・河原書店・一九六九年）
  - ・西尾光一『説話文学小考』（教育出版・一九八五年）
  - ・原檀子『斎王物語の形成——斎宮・斎院と文学——』（新典社・二〇一三年）
  - ・福永静哉『韻鏡新釋』（あそか書林・一九五五年）
  - ・前田雨城『色―染と色彩』（ものと人間の文化史38・法政大学出版局・一九八〇年）
  - ・前田雅之『今昔物語集の世界構想』（笠間書院・一九九九年）
  - ・馬淵和夫『韻鏡校本と広韻索引』（日本学術振興会・一九五四年）
  - ・目加田さくを『平安朝サロン文学史論』（風間書房・二〇〇三年）
  - ・森正人『古代説話集の生成』（笠間書院・二〇一四年）
  - ・山口仲美『平安文学の文体の研究』（明治書院・一九八四年）
  - ・山田孝雄『奈良朝文法史』（宝文館・一九一三年）
  - ・山田孝雄『源氏物語の音楽 復刻版』（宝文館・一九六九年・初版一九三四年）
  - ・山田孝雄『日本文法学概論』（宝文館・一九三六年）
  - ・山田孝雄『平安朝文法史』（宝文館・一九五二年）
  - ・山田孝雄『平家物語の語法』（宝文館・一九五四年）
  - ・吉澤義則『増補源語釋泉』（臨川書店・一九七三年）
- 【参考文献】**（著者の五十音順）
- ・秋山虔「一条朝の文芸サロン——中宮定子・中宮彰子・大斎院選子をめぐって——」（學燈社編『國文學 解釈と教材の研究』vol.12・一九六七年）
  - ・東望歩「大斎院サロン考」（名古屋大学国語国文学会編『名古屋大学国語国文学』100号・二〇〇七年）
  - ・安倍素子、川浪玲子、椎葉富美、中村文子、福田益和、山口康子
  - 「古本説話集」研究上の諸問題（四）——『大和物語』との類似性——（長崎純心大学大学院人間文化研究科編『人間文化研究』第十四号・二〇一六年三月）
  - ・安西奈保子「大斎院選子サロン考——徹子・定子・彰子サロンとの比較を中心に——」（平安文学研究会編『平安文学研究』No.69・一九八三年）
  - ・安西奈保子「大斎院和歌考」（平安文学研究会編『平安文学研究』No.72・一九八四年）
  - ・石川徹「古本住吉物語の内容に関する臆説」（『平安時代物語文学論』笠間書院・一九七九年所収）
  - ・稲賀敬二「延喜・天曆期と『源氏物語』とを結ぶもの——大斎院のもとにおける新版『住吉』の成立」（広島平安文学研究会編『源氏物語その文芸的形成』一九七八年所収）
  - ・菟田俊彦「大斎院選子内親王——源氏物語の創作事情」（國學院大學編『國學院雜誌』73(8)・一九七二年八月）
  - ・遠藤邦基「類推・マ行音とバ行音の交替を中心に」（光華女子短期大学編『研究紀要』6・一九六九年一月）
  - ・大井重二郎「平安京の京程に関する疑問」（史迹・美術同致會編『史迹と美術』25(2)・一九五五年一月）
  - ・大野晋「仮名遣の起源について」（東京大学国語国文学会編『国語と国文学』一九五〇年十二月号）
  - ・岡崎知子「大斎院選子の研究」（『平安朝女流作家の研究』法蔵館・一九六七年所収）
  - ・岡崎知子「大斎院選子における神と仏」（『平安朝女流作家の研究』法蔵館・一九六七年所収）
  - ・岡崎真紀子「『発心和歌集』の詠歌と享受」（奈良女子大学日本アジア言語文化学会編『叙説』40・二〇一三年三月）
  - ・岡田精司「賀茂別雷神社の祭祀の特色」

- ・木村正中「紫式部と大齋院」  
（祭祀史料研究会編「祭祀研究」(3)・二〇〇三年十一月）
- ・国田百合子「敬語接頭辞と動作語・形容語との融合」  
（學燈社編「國文學 解釈と教材の研究」vol.12・一九六七年）
- ・久保木秀夫「『発心和歌集』 選子内親王作者説存疑」  
（全国大学国語国文学会編「季刊文学・語学」(33)・一九六四年九月）
- ・小池清治「連体形終止法の表現効果—今昔物語集・源氏物語を中心に—」  
（おうふう編「国文学言語と文芸」9(5)・一九六七年）
- ・小出素子「宇治拾遺物語の説話配列について—全巻にわたる関連表示の試み—」  
（平安文学研究会編「平安文学研究」67・一九八二年）
- ・小久保崇明「御とのごもる」考」  
（解釈学会編「解釈・国語・国文」49(5)(6)・二〇〇三年五月）
- ・児玉識「中世説話集の文献学的考察—梅沢本古本説話集を中心に—」  
（宇部工業短期大学・宇部工業高等専門学校編「宇部工業短期大学  
高等専門学校研究報告」一卷二号・一九六四年）
- ・小林芳規「見せ消ち符号について—訓点資料を主として—」  
（訓点語学会編「訓点語と訓点資料」(77)・一九八七年三月）
- ・小柳智一「中古のバカリについて—限定・程度・概数量—」  
（東京大学国語国文学会編「國語と国文学」74(7)・一九九七年七月）
- ・小柳智一「万葉集のノミ—史的変容—」  
（実践国文学会編「実践國文學」55・一九九九年三月）
- ・小柳智一「中古のバカリとマデ—副助詞の小さな体系—」  
（國學院大學編「國學院雜誌」101(12)・二〇〇〇年十二月）
- ・小柳智一「『ずは』の語法—仮定条件句—」  
（萬葉學會編「萬葉」(189)・二〇〇四年七月）
- ・小柳智一「中古の「バカリ」と「ノミ」」  
（國學院大學編「國學院雜誌」98(12)・一九九七年十二月）
- ・小山利彦「皇城地主神のイツキヒメとしての斎王  
——大齋院選子内親王と源氏物語への連関——」  
（平安文学と隣接諸語6『王朝文学と斎宮・齋院』後藤祥子編・二〇〇九年所収）
- ・今野達「今昔物語集雑考(一)」  
（都留文科大学国語国文学会編「国文学論考」創刊号・一九六五年三月）
- ・今野達「今昔物語集雑考(二)」  
（都留文科大学国語国文学会編「国文学論考」第二号・一九六五年六月）
- ・阪倉篤義「接尾語ラカ・ヤカとその派生語」  
（『語構成の研究』角川書店・一九六六年所収）
- ・椎葉富美、川浪玲子「接頭語「大」の訓みと語構成に関する一考察  
——鎌倉時代以前を中心に——」  
（長崎純心大学大学院人間文化研究科編「人間文化研究」第十五号・二〇一七年三月）
- ・椎葉富美「けむかしの表現性」  
（長崎純心大学教職課程センター編「教職課程センター紀要」第3号・二〇一九年）
- ・椎葉富美、川浪玲子「上代における「御」字の使用状況について」  
（長崎純心大学大学院人間文化研究科編「人間文化研究」第十七号・二〇一九年二月）
- ・藪部幹生「古本説話集について」  
（駒沢大学大学院国文学会編「論輯」(11)・一九八三年二月）
- ・高田信敬「大齋院名義考証」  
（鶴見大学文学部編『創立三十周年記念 鶴見大学文学部論集』一九九三年三月）
- ・田中みどり「上代の敬語(1)畏敬・讚称・美称の接辞および尊称のオホ大」  
（佛敎大学国語国文学会編「京都語文」(14)・二〇〇七年十一月）
- ・竹部歩美「源氏物語における「おとど・おほいとど・大臣」について」  
（東京都立大学国語国文学会編「都大論究」(45)・二〇〇八年六月）

- ・橋健二「古本説話集」  
(學燈社編「國文學 解釈と教材の研究」3(11)・一九五八年十一月)
- ・田淵句美子「『無名草子』の視座」(『中世文學』(57)・二〇二二年)
- ・玉上琢彌「敬語の文学的考察——源氏物語の本性(其二)——」  
(京都帝國大學國文學會編「國語國文」21(2)・一九五二年三月)
- ・塚谷多貴子「皇后宮令子歌壇論——金葉集期の女歌壇」  
(北海道大学国文学会編「国語国文研究」(52)・一九七四年十一月)
- ・東郷富規子「選子齋院考」(関西大学史学会編「史泉」(4)・一九五六年四月)
- ・東郷富規子「大齋院管見」  
(園田学園女子大学編「園田学園女子大学論文集」(4)・一九六九年)
- ・富樫美恵子「撰関期の齋宮・齋院の選定と齋王忌避の思想」  
(奈良女子大学史学会編「寧楽史苑」47・二〇〇二年)
- ・所京子「選子内親王齋院関係の和歌集成」  
(神道史学会編「神道史研究」35(2)・一九八七年四月)
- ・所京子「齋院選子内親王の仏教信仰」  
(神道史学会編「神道史研究」35(3)・一九八七年七月)
- ・中周子「大齋院選子内親王」  
(平安文学と隣接諸学6『王朝文学と齋宮・齋院』後藤祥子編・二〇〇九年所収)
- ・永積安明「宇治拾遺物語の世界」(岩波書店編「文學」32(1)・一九六四年一月)
- ・錦仁「院政期歌合せの構造と方法——〈藝〉から〈晴〉への和歌史観の批判」  
(日本文学協会編「日本文学」43(2)・一九九四年二月)
- ・錦仁「古今集」仮名序と院政期の和歌観念」  
(日本文学協会編「日本文学」44(7)・一九九五年七月)
- ・西村さとみ「古代」平安京の祭祀——賀茂祭の変遷をめぐって〔含「質疑・討論」〕  
(大阪歴史学会編「ヒストリア」(145)・一九九四年度(大阪歴史学会大会特集号・一九九四年十二月))
- ・土部弘「総叙と細叙」  
(大阪芸芸大学国語国文学研究室編「学大国文」(17)・一九七三年十一月)
- ・平林一利「『ロザリオ記録』の「御(ゴ)・ギョ・おん・み」について」  
(佐藤栄学園埼玉短期大学編「学校法人佐藤栄学園埼玉短期大学研究紀要」(10)・二〇〇一年三月)
- ・福屋俊幸「一条後宮から見た大齋院文化圏」  
(平安文学と隣接諸学6『王朝文学と齋宮・齋院』後藤祥子編・二〇〇九年所収)
- ・堀部正二「新資料による住吉物語の一考察」  
(『中古日本文学の研究』クレス出版・一九九九年所収)
- ・松本宙「キリシタンローマ字資料におけるマ行音バ行音交替現象の実態」  
(日本文藝研究会編「文藝研究」(42)・一九六二年九月)
- ・松本宙「マ行音バ行音交替現象」  
(東北大学文学部「国語学研究」刊行会編「国語学研究」(5)・一九六五年)
- ・三田村雅子「女性たちのサロン——大齋院サロンを中心に——」  
(學燈社編「國文學 解釈と教材の研究」vol.34・一九八九年)
- ・宮田匡子「宇治拾遺物語——構成とその世界」  
(京都帝國大學國文學會編「國語國文」43(2)・一九七四年二月)
- ・室城秀之「『おほきおとど』と『だいじやうだいじん』——『落窪物語』と『源氏物語』を例として」  
(白百合女子大学国語国文学会編「国文白百合」(41)・二〇一〇年三月)
- ・矢吹重政「宇治拾遺物語に於ける説話配列の方式」  
(日本大學國文學會編「國學」9・一九四〇年二月)
- ・山口康子、福田益和「古本説話集目録の性格と訓読」  
(『国語学会』口頭発表・一九七二年五月)
- ・山口康子、福田益和「古本説話集目録訓読についての一問題——古本説話集の場合——」



（解釈学会編「解釈」・一九七二年十一月号）

・山口康子、福田益和「古本説話集「目録」訓読についての一視点

——人物をうける「の」「が」——

（全国大学国語国文学会編『季刊文学・語学』第66号・一九七三年三月号）

・山口康子、福田益和「古本説話集『目録』の性格」

（説話文学会編「説話文学研究」一九七三年六月）

・山内洋一郎「草体仮名の織り成す美と実と

——古本説話集四筆の交響——

（国語語彙史の研究 三十二）和泉書院・二〇一二年所収

## 補遺一 符号・書き入れについて

次の影印は、『古本説話集』第一話五丁オ2である。四字目の「の」と「あ」の間に「い」があり、やや不明瞭であるが八字目の「た」の右傍に「✓」がある。

\*用例①（第一話・五オ2・第一書写者）



〔e 國寶 国立博物館所蔵 国宝・重要文化財〕<http://www.emuseum.jp/top?lang=ja>による。以下の画像も同じ）

該当部分の、参照テキストの言及は次のとおりである。

『岩波文』は、本文を「みかどのいあまたたびく」とし、「みかとの」の下の「い」を「これは普通誤脱の標示である」とする。「たひく」の「た」の右傍の「✓」については言及がない。

『全書』は、本文を「天皇<sup>みかど</sup>のあまたたびく」とし、「の」「✓」ともに、言及がない。なお『全書』の本文は、読みやすさの便を考え、適宜漢字を当てている。

『総索引』は、本文を「みかどのいあまたたびく」とする。「の」については言及しないが、「✓」を「反轉記号✓があり、『たびくあまた』と讀むべきことを示す」とする。

『全註解』は、本文を「みかどのあまたたびく」として、『総索引』の注を引用するが、「レ点」は影印本では不明瞭」と注する。

『新大系』は、特に注してはいないが、本文を「みかどのたびくあまた」とする。

『全訳注』は、本文を「みかどのたびくあまた」とし、『たびたびあまた』



は原文『あまたたひく』『たひ』の右傍に反転記号レ点がある。ただしレ点は影印本では不明瞭」と注する。

本注釈「其の一」では、「○」を筆のかすれと見て、「✓」を含め本文の読み方について、文意としては変わらないという観点から特定しなかった。本文中の符号・書き入力を、すべて検討した上で判断が必要だと考えたからである。なお、「其の一」発表後に、先学諸氏よりさまざまなご教示を受けた。

以下、該当本文をどのように訓むべきかを特定するために、本集の符号・書き入力を全調査する。調査にあたっては、許可を得て直接撮影した写真、『梅澤本 古本説話集』（貴重古典籍刊行会編、貴重古典籍刊行会発行・一九五五年）、『古典資料類従6 梅沢本 古本説話集』（川口久雄解説・勉誠社・一九七七年）、『古典資料124 古本説話集』（川口久雄解説・勉誠社・一九八五年）、「e 國寶 国立博物館所蔵 国宝・重要文化財」([http://www.emuseum.jp/top/d\\_lang\\_ja](http://www.emuseum.jp/top/d_lang_ja)) など、現在見得る資料をすべて参照して検討した。調査の結果は、次頁の表「古本説話集」話別の符号・書き入れ数」にまとめた。

ところで、本集の本写本には、以下の五枚の付箋がある。

是まて為氏とあれとも阿仏尼ならん(三三才右上隅)

是迄為氏卿(二三才左下隅)

是分爲相卿(二三才左上隅)

是迄爲相卿(九三才左下隅)

是分爲氏卿(九三才右上隅)

山内洋一郎氏は「草体仮名の織り成す美と実と——古本説話集四筆の交響——」（『国語語彙史の研究 三十二』和泉書院・二〇一二年 所収）の中で、この付箋を参考にしたうえで、仮名字母の調査をし、書写者は明らかにしていないが、四名の書写者による写本と推定し、A～Dの記号で示して以下のように分ける。

A（第一話五才1～第二話三三才10・56行）

B（第二話三三才1～第四六話五九才6・525行）

C（第四七話六才1～第五八話九三才10・630行）

D（第五八話九三才1～第七〇話一三八才1・88行）

本稿では一つの目安として、この四名の書写態度を弁別するために、四部分に分けて次頁の表を作成した。なお、A～Dを第一～第四書写者と称する。

その結果、本集の符号・書き入れは、全110例。そのうちの895例は、同じ漢字または仮名を重ねるときに使う（繰り返し符号）（踊り字・重ね字・疊字・重点とも）で、本文の行中に存在する。影印262行中、一の字点（一）711例・くの字点（く）184例の二種類である。残る215例は、（書き入れ）である。その内訳は、見せ消し92例、抹消3例、補入符号（右に傍書）54例、補入符号なしの書き入れ62例、反転符号（○）（✓）4例である。本稿では、前掲用例①の訓みを決定するための論であるから、反転符号についてのみ述べる【注①】。それ以外の符号・書き入れについての詳細は、別稿『古本説話集』の符号・書き入れについて（椎葉富美「人間文化研究 第十八号」長崎純心大学大学院人間文化研究科編二〇二〇年三月）を参考にされたい。

反転符号は、該当部分以外に三例確認した。以下、順に説明する。

\*用例②（第二話・一一才8・第一書写者）



用例①の符号はやや不明瞭であったが、用例②は、「女院」の下の「○」「う」の傍書「✓」、ともにはっきりと読み取れる。該当部分の、参照テキストの言及は次のとおりである。

『岩波文』は、本文を「女院ははじめてうちへ」とし、「原本『う』の右に✓印を注す。『うちへははじめて』と顛倒すべきよしをしるす」とする。

『全書』は、本文を「女院内裏へははじめて」とし、「○」「✓」ともに言及がない。

『古本説話集』話別の符号・書き入れ数

| 話<br>写<br>者 | 行<br>数 | (繰り返し符号)     |              | <書き入れ>            |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            | 計 | 話<br>写<br>者 |     |           |   |   |     |      |     |
|-------------|--------|--------------|--------------|-------------------|-----|----------|--------------------------|--------------------------|----------|-----------|-------------------|-------------------|--------------|------------|-----------------|---------------------------|-------------------|-----------|-------------|---------------------------|--------------------|------------|---|-------------|-----|-----------|---|---|-----|------|-----|
|             |        | 1.一の字<br>(>) | 2.くの字<br>(<) | ①挿入               |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   | ②見せ消し        |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    | ③反転<br>(い) |   |             | ④墨減 |           |   |   |     |      |     |
|             |        |              |              | 1.挿入符号を付け<br>て右傍書 |     |          | 2.挿入符号を付けず挿入             |                          |          |           |                   |                   | 1.二重線<br>(=) |            |                 | 2.左一<br>重線<br>(-)・傍<br>書無 |                   |           | 3.斜線<br>(/) |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     |      |     |
|             |        |              |              | ア一重               | イ二重 | ア右傍<br>書 | イ右に<br>「本」<br>字を含む<br>傍書 | ウ右に<br>「歌」<br>字を含む<br>傍書 | エ左傍<br>書 | オ重ね<br>書き | カ重ね<br>書きと<br>右傍書 | キ廻り<br>消して<br>右傍書 | ア左・<br>右傍書   | イ左・<br>傍書無 | ウ真<br>中・右<br>傍書 | エ真<br>中・傍<br>書無           | オ左と<br>真中・<br>傍書無 | ア左二<br>重線 | イ真中<br>二重線  | ウ二重<br>の挿入<br>符号有・<br>右傍書 | エ挿入<br>符号無・<br>右傍書 |            |   |             |     | オ斜線<br>のみ |   |   |     |      |     |
| 711         | 184    | 52           | 64           | 7                 | 45  | 43       | 6                        | 1                        | 2        | 10        | 1                 | 1                 | 11           | 44         | 6               | 15                        | 1                 | 1         | 1           | 1                         | 1                  | 1          | 1 | 1           | 2   | 4         | 6 | 4 | 2   | 1109 |     |
| 2613        | 895    | 116          |              |                   |     |          |                          |                          |          |           | 77                |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             | 92                        |                    |            |   |             |     |           |   |   | 214 | 1109 |     |
| 1           | 127    | 26           | 12           |                   |     |          | 1                        |                          |          |           |                   |                   |              | 3          | 1               |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   | 1   | 41   |     |
| 2           | 47     | 11           | 9            |                   |     |          | 1                        |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   | 1   | 26   |     |
| 3           | 18     | 8            | 1            |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 9    |     |
| 4           | 18     | 3            | 1            |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 4    |     |
| 5           | 36     | 9            | 1            |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 10   |     |
| 6           | 47     | 5            | 2            |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            | 1               |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 8    |     |
| 7           | 11     | 1            |              |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 1    |     |
| 8           | 40     | 10           | 3            |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 | 3                         |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 16   |     |
| 9           | 38     | 9            | 6            |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 15   |     |
| 10          | 5      | 1            |              |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 1    |     |
| 11          | 18     | 1            |              |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 2    |     |
| 12          | 10     | 1            |              |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 1    |     |
| 13          | 5      | 1            |              |                   |     |          | 1                        |                          |          |           |                   |                   |              |            | 1               |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 2    |     |
| 14          | 11     | 5            | 1            |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 6    |     |
| 15          | 8      | 2            |              |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 2    |     |
| 16          | 12     | 8            |              |                   |     |          | 1                        |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 9    |     |
| 17          | 8      | 1            |              |                   |     |          | 1                        | 1                        |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 3    |     |
| 18          | 11     | 2            | 1            |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 3    |     |
| 19          | 34     | 22           | 1            |                   |     |          | 2                        | 2                        |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 27   |     |
| 20          | 56     | 12           | 2            |                   |     |          | 3                        | 1                        |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 1    | 26  |
| 21          | 10     | 3            | 2            |                   |     |          | 1                        | 1                        |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 7    |     |
| 計           | 570    | 140          | 42           | 0                 | 8   | 7        | 1                        | 0                        | 0        | 5         | 0                 | 0                 | 3            | 3          | 0               | 0                         | 0                 | 0         | 0           | 0                         | 0                  | 0          | 0 | 0           | 0   | 0         | 1 | 1 | 2   | 0    | 213 |
| 22          | 4      | 1            |              |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 1    |     |
| 23          | 6      | 1            |              |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 0    |     |
| 24          | 11     | 3            |              |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 3    |     |
| 25          | 11     |              |              |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 0    |     |
| 26          | 38     | 13           | 4            |                   |     |          | 1                        |                          |          |           |                   |                   |              |            | 1               |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 26   |     |
| 27          | 50     | 15           | 3            |                   |     |          | 1                        |                          |          |           |                   |                   |              |            | 1               |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 24   |     |
| 28          | 174    | 54           | 16           |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            | 6               |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 77   |     |
| 29          | 10     | 2            |              |                   |     |          | 1                        |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 3    |     |
| 30          | 13     | 3            | 1            |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 4    |     |
| 31          | 5      | 1            |              |                   |     |          | 1                        |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 2    |     |
| 32          | 5      |              |              |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 0    |     |
| 33          | 8      | 3            |              |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 3    |     |
| 34          | 15     | 3            |              |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 3    |     |
| 35          | 16     | 5            | 2            |                   |     |          | 1                        |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 8    |     |
| 36          | 7      | 1            |              |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            | 1               |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 2    |     |
| 37          | 4      |              |              |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 0    |     |
| 38          | 12     | 3            | 2            |                   |     |          | 1                        |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 7    |     |
| 39          | 14     | 3            | 1            |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 4    |     |
| 40          | 35     | 7            | 1            |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            | 2               |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 10   |     |
| 41          | 13     | 4            |              |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 5    |     |
| 42          | 6      |              |              |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 0    |     |
| 43          | 9      | 3            |              |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            | 1               |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 4    |     |
| 44          | 28     | 5            | 4            |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            | 1               |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 10   |     |
| 45          | 8      |              |              |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 0    |     |
| 46          | 18     | 2            |              |                   |     |          | 1                        |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 3    |     |
| 計           | 526    | 131          | 35           | 0                 | 3   | 3        | 1                        | 0                        | 2        | 0         | 0                 | 0                 | 0            | 14         | 0               | 0                         | 0                 | 0         | 1           | 1                         | 0                  | 0          | 0 | 0           | 0   | 2         | 2 | 0 | 0   | 195  |     |
| 47          | 73     | 23           | 2            |                   |     |          | 1                        | 1                        |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 27   |     |
| 48          | 21     | 2            | 2            |                   |     |          | 1                        |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 7    |     |
| 49          | 24     | 8            | 1            |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 19   |     |
| 50          | 20     | 8            | 1            |                   |     |          | 1                        | 1                        |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 11   |     |
| 51          | 61     | 16           | 3            |                   |     |          | 3                        | 3                        |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 25   |     |
| 52          | 59     | 17           | 5            |                   |     |          | 1                        |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 29   |     |
| 53          | 81     | 26           | 13           |                   |     |          | 1                        | 5                        |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 45   |     |
| 54          | 97     | 21           | 5            |                   |     |          | 1                        |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 28   |     |
| 55          | 21     | 2            |              |                   |     |          | 1                        |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 3    |     |
| 56          | 52     | 16           |              |                   |     |          | 1                        |                          |          |           |                   |                   |              |            | 2               |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 19   |     |
| 57          | 36     | 5            | 1            |                   |     |          | 2                        |                          |          |           |                   |                   |              |            | 1               | 1                         |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 10   |     |
| 計           | 85     | 26           | 7            |                   |     |          | 2                        |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 38   |     |
| 58          | 630    | 170          | 40           | 1                 | 8   | 16       | 1                        | 1                        | 0        | 2         | 1                 | 0                 | 0            | 0          | 0               | 2                         | 0                 | 0         | 0           | 0                         | 1                  | 1          | 2 | 0           | 0   | 0         | 0 | 0 | 0   | 246  |     |
| 59          | 126    | 43           | 5            |                   |     |          | 7                        | 2                        |          |           |                   |                   |              |            |                 | 1                         |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 60   |     |
| 60          | 45     | 11           | 2            |                   |     |          | 1                        | 1                        |          |           |                   |                   |              |            | 1               |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     | 18   |     |
| 61          | 54     | 11           | 2            |                   |     |          |                          |                          |          |           |                   |                   |              |            |                 |                           |                   |           |             |                           |                    |            |   |             |     |           |   |   |     |      |     |

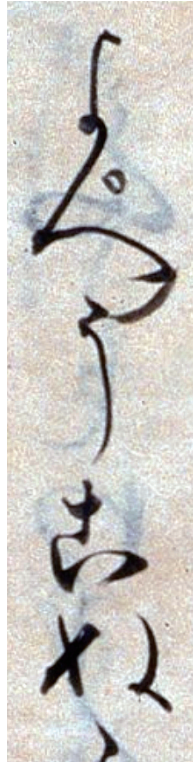
『総索引』は、本文を「女院はじめてうちへ」とし、「うちへはじめて」となる。尤も今昔は轉置しない形である」と注する。

『全註解』『全訳注』は、本文を「女院うちへはじめて」とし、「原本は「はじめてうちへ」として、『う』の右側にレ印を付し、『うちへはじめて』と読むことを注す」とする。

『新大系』は、特に注してはいないが、本文を「女院うちへはじめて」とする。

用例②は、すべてのテキストが、「うちへ」という文節を、「い」部分に移動すると解釈していた。

＊用例③（第三話・三四オ5・第二書写者）



「よ」と「へ」の間の「い」、「う」の傍書「✓」、ともにはっきりと読み取れる。該当部分の、参照テキストの言及は次のとおりである。

『岩波文』は、本文を「よいべう」とし、「ようへ」と顛倒すべきを注すとする。

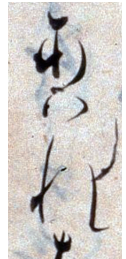
『全書』は、本文を「ようべ」とし、「い」✓「い」ともに言及がない。

『総索引』は、本文を「ようべ」とし、「記号により『ようべ』とよむ」と注する。

『全註解』『全訳注』『新大系』は、本文を「ようべ」とし、「い」✓「い」ともに、言及がない。

用例③は、すべてのテキストが、「う」字を「い」部分に移動すると解釈していた。

＊用例④（第四一話・五六オ6・第二書写者）



「あ」と「は」の間には、用例③ほど明瞭ではないものの、「い」が認められる。「れ」の傍書も用例③ほど力強くないが、「✓」がはっきりと読み取れる。該当部分の、参照テキストの言及は次のとおりである。

『岩波文』は、本文を「あいはれ」とし、「は」と「れ」と顛倒すべきを注す」とする。

『全書』は、本文を「あれば」とし、「い」✓「い」ともに言及がない。

『総索引』は、本文を「あいはれ」とし、「符号により『あれば』とたたくよむ」とする。

『全註解』『全訳注』『新大系』は、本文を「あれば」とし、「い」✓「い」ともに、言及がない。

用例④は、すべてのテキストが「れ」字を「い」部分に移動すると解釈していた。

以上、用例②③④ともに、「い」✓「い」が対の形で構成されていた。用例②（第一書写者）は文節を、用例③④（第二書写者）は一文字を、「い」に移動することを示していた。よって、五丁オ2（第一書写者）も「い」✓「い」を認め、両者併せて反転符号とし、「みかどのたびくあまた」と訓む。

よって、「其の一」用例①（五オ2）での記述を修正し、「い」✓「い」を対応する一組の符号と認定する。「其の一」発表当時にご教示を賜った高田信敏氏・川上徳明氏をはじめ、先学諸氏に感謝申しあげる。

【注①】山内洋一郎氏と高橋貞氏は「✓」を反転記号とする。高田信敏氏は、「✓」を移動記号、「い」を移動先を示す記号とする。本稿では、「い」✓「い」を対応する一組として「反転符号」とする。

## 補遺一

### 注釈における訓みの問題——字音語の訓みを中心に——

編者未詳の本集は、漢字交りの平仮名文を主体とした「説話本文」（前半46話・後半24話）と「目録」（「説話本文」の前半の冒頭と、同後半の冒頭に置かれている）から成っている。なお、本集には『今昔物語集』等にもみられる「説話表題」はない。

#### 一 「目録」の訓みについて

本集の「目録表題」は、前半の表題・後半の表題ともに、すべて漢字表記で変体漢文の体裁をとっている。

一般に「目録」は「説話本文」の付録としてみなされ、便宜的に取り扱う態度があつたが、「説話本文」の内容を知る上での「指標」としての機能があると考え、研究の対象とすべきことは、本稿の「其の一」で既述のとおりである。よって、漢字表記の「目録表題」は訓みの対象として逐一考察していくことになる。「説話表題」を欠く本集では、「目録表題」との比較対照はできないが、対応する「説話本文」の表現を通じてその訓みを考えることになる。ただ、内部徴証よりみて「目録」作成者は、「説話本文」の編著者とは別人、それも後代の人と考えられるので、その訓みについては慎重さが求められる。

第一話の目録表題「大齋院事」については、既述（本稿「其の一」）したように、その語構成が比較的単純（人名（和歌作者）＋事）で、訓読にあたり留意すべき点は次の二点。

- ①人名（大齋院）と「事」を結ぶ助詞の問題
  - ②人名「大齋院」の訓みの問題
- である。

①は連体格助詞「の・が」による尊卑表現【注①】の使い分けで、それを決める基準の第一として、「説話本文」の内部徴証、次に類話の表現を検討して、「の」助詞によるべきこと、すなわち「大齋院の事」と訓むべきだと結論づけた。

②は、「大」字の下接語（和語・字音語）に着目し、他文献に見える同じ語連結の事例と比較、また「大齋院」の仮名書き資料等とも参考にして、「おほさいるん」と訓むべきだとした【注②】。

以下の「目録表題」についても、説話本文の内部徴証を第一にして、更に類話等の尊卑表現や、表題の語構成（前半と後半とは、語構成が異なる）、他文献の仮名書き事例をも視野に入れて、訓みを考えていく。

【注①】古本説話集「目録」訓読についての一視点

——人物をうける「の」が——

（山口康子、福田益和「季刊 文学・語学」第66号・一九七三年三月号）

【注②】接頭語「大」の訓みと語構成に関する一考察

——鎌倉時代以前を中心に——

（椎葉富美、川浪玲子「人間文化研究 第十五号」）

長崎純心大学大学院人間文化研究科編・二〇一七年三月）

#### 二 「説話本文」の訓みについて

各説話の内容理解の一助として、説話ごとにその冒頭に置かれた「説話表題」は有効であるが、本集はそれを欠くので、「目録表題」を視野に入れながら読みすすめることになる。

「説話本文」は平仮名主体の文章で、和語・字音語とり交ぜながら、全体としては和文体の本文と認められる。平仮名主体とは言っても、無論、漢字表記の語もあり、それは和語・字音語に及んでいる。

## (1) 第一話の訓みについて

第一話で例示すると、

① 神、光、思（ふ）、御有（さま）、三井寺……

② 齋院、佛経、本院、雲林院、極楽……

①は、和語の漢字表記で、文脈に従い、本文にあらわれる仮名表記の事例と比較し、古辞書（倭名抄・色葉字類抄・類聚名義抄・節用集等）に見える「和訓」等を参考にして訓みを決める。

②は、字音語の漢字表記事例。その訓みについては、中国出自の漢語なのか、受容の時の変異を受けたいわゆる和製の漢語なのか見定める必要がある。それは各字音語について、中国原音（音韻組織）の変容、つまり「日本漢字音」を考へることにつながっていくはずである。

## (2) 仮名書きの字音語について

本集第一話（大齋院事）で問題となる仮名書きの字音語については、いくつか検討を試みた（本稿「其の一」～「其の三」）。その字音語を、本文の表記どおりに示す。

さい宮・えいくわ・いふに・らうくしく・御せむ・御たいめむ・

ひむ（なく）・かむし・むけに・せむさい・御きちやう・御らむす・

さう（のこと）・ひやうてう・れう・しむ殿・さうし

中でも、韻尾「-m」「-n」にかかる字音語（御せむ、御たいめむ、御らむす、しむ殿）については、本集の他の仮名書き事例や、古辞書の和訓をもとに宛てるべき漢字を考え、その漢字音について、中国原音を視野に入れて考察した。その中国原音を知る上で用いたのは、『韻鏡』である。わが国では長い研究史を有する『韻鏡』は、わが国での字音語の受容と変容を考察するのに有効と考へたからである。

## (3) 『韻鏡』の利用について

## ① 漢字音の音節構造

ところで、漢字は表語文字であり、呉音であれ漢音であれ、その字音の音節構造は、一字＝一語＝一音節で、声母（頭子音）、韻母（介音・核母音・韻尾）、声調の三類五要素から成り立っている。また、「中古音」の場合、発音のしかた（調音法）によって、

全濁（無声無気音） 次清（無声有気音）

全濁（有声音） 次濁（鼻音等）

の区別がある。このような複雑な音節構造や調音法に慣れていない日本人にとつて、その習得は容易ではなかったと思われる。その結果、例えば、

・全清・次清の対立がなくなり、清音に統一。

・三内韻尾のうち、 $/-m/$ は区別がなくなる。

・入声音も閉鎖性をなくして、開音節化する。

等の変容が見られる。これらの習得上の変容をもとに、日本漢字音を眺める時、中国原音との比較対照が必要となる。中国原音（中古音）の体系をわかりやすく知るものとして有効なものの一つが、『韻鏡』である。

## ② 中国における『韻鏡』の利用について

『韻鏡』は原作者未詳、成立年代も不明（十世紀ころ、唐宋～五代?）。南宋の紹興三十一（一一六一）年、張麟之によって刊行された。以後、続刊されたが、中国では佚書となり、それがわが国に伝わっている。『韻鏡』は四十三枚の図表（転図）の体裁を成し、縦の行に同声母、横の段に同韻母のものを配す。その声母（36字母）を唇音・舌音・牙音・齒音・喉音・半舌音・半齒音に分け（調音点の違い）、それを更に調音法の違いにより、清（全清）・次清・濁（全濁）・清濁（次濁）と小分類する。韻（206韻）は声調（平・上・去・入）によって分けられ、さらに二等・三等・四等と細分類される。各漢字はその字音の性質によって、縦・横の交叉点上に位置づけられるという仕組みである。



③日本における『韻鏡』の利用について

『韻鏡』は、切韻系韻書の流れをくむものであるが、その『切韻』『広韻』等は、声母別の分類が成されていない。そのため、反切法等を用いての面倒な操作が必要となる。一方、『韻鏡』はそのわずらわしさはなく、中古漢語の音韻体系を一覧することができる点で画期的といえる。わが国で『韻鏡』が字音研究の上で、中世・近世・近代を通じて、中心的役割を担ったのはそのためである。

馬淵和夫氏が、その著『韻鏡校本と広韻索引 新訂版』（巖南堂書店・一九七三年）の「序」で、

一 韻の分類において、韻書よりもさらに詳細であること。

二 頭韻の分類をなしたのものとしては最古のものに属し、その分類がもっとも詳密であること。

三 諸音間の関係が図示されていて一目瞭然であること。（四、五略す）と指摘しているとおりである。ただ氏は、次のことをも付言する（筆者要約）。

中国では、現代中国音韻学の始祖である高本漢（筆者注・カール・グレンソン）が、あまり価値を認めなかったため、その評価に大きな支障をきたしたようであり、日本ほど親しまれていなかった。一方日本では、『韻鏡』を「韻のかがみ」として尊重するあまり、万代に通行する万能なものとする錯覚に陥っていった。そのため、『韻鏡』を中国音韻史の中に、正しく位置づけることに欠けていた。

『古本説話集』の字音研究・訓みの問題を考える時、同氏のことを念頭におきながら、中国漢字音（中古音）の受容の過程が、どのようなものであったかを知る有効な資料の一つとして、『韻鏡』は利用すべきであると考えられる。

補遺三

冒頭話「大齋院事」の本集全体における象徴的意義

一 第一話の構成

冒頭に置かれた「大齋院事」は、「大齋院」と呼ばれた選子内親王の出生から薨去までの一生を語るものである。これは、以後に続く説話には見られない形である。第二話以降はほとんどが、ある人物のある時点における断片的な逸話であるか、あるいは仏教的な奇跡・靈験を語る逸話である。そういう意味で、第一話「大齋院事」は別格である。

第一話の前半は、選子の出生から齋院として「めでたく、心にくく、をかし（七オ4）」過ごした時期を語る。齋院御所は「齋院ばかりの所はなし（七オ6）」と言われたほどの文化サロンとして「上達部・殿上人、絶えず（七オ4）」訪れ、その中で『大齋院前御集（394首）』や『大齋院御集（135首）』が編まれている。また、齋院でありながら、仏への信仰厚く、「釈教関係歌」が詠まれており、『発心和歌集（55首）』が残されているという。

後半は老齡の選子を中心に御所の品位を保とうと努力している様子が語られる。雲林院帰りの殿上人が訪れた齋院御所の描写は選子齋院の最後の輝きを語っている。その年退下した選子は出家し、数年後に薨去、三井寺に葬られる。前半は「大鏡」「師輔」に極めて近く、また、「大鏡」は雲林院と関係が深い。後半は雲林院帰りの殿上人の話の後、後日譚の形で葬送までが語られるが、これは「今昔」と酷似している。第一話が「大鏡」「師輔」の一部と「今昔」「巻第十九本朝付仏法村上天皇御子大齋院出家【注①】語第十七」とに構文に到るまで似通っていることは定説であるが、この点について、本文に即して、具体的に見ていきたい。

そこで次頁に、「大鏡」「古本」「今昔」の問題とする本文の一部を示す。便宜上、上段に「大鏡」、中段に「古本」、下段に「今昔」を配した。

・本文引用にあたっては、(中略)と示した箇所以外は、本文どおりに示している。表中の空白部分は、対照の便のためである。傍線筆者。

|  |  |  |
|--|--|--|
| <p>『大鏡』師輔(大系・「)内、『古本』本文になし</p>   | <p>『古本説話集』第一話(全注釈)本文</p>   | <p>『今昔物語集』卷第十九第十七(新大系)</p>   |
| <p>うみをきたてまつらせ給したびのみやこそは、いまの齋院におはしませ。いつきの宮におほくおはしませど、これはことにうごきなく、よにひさしくもちおはします。「たゞこの御一すぢのかくさかへたまふべきとぞみ申。」むかしの齋宮・齋院は佛經などのことはいませ給けれど、この宮には佛法をさへあがめ給て、あさごとの御念誦か、せたまはず。「ちかくは、この御寺のけふの講には、さだまりて布勢をこそはをくらせたまふめれ。いと、うより神人にならせたまひて、いかでかゝる事をおほしめしよりけんとおぼえさぶらふは、)賀茂のまつりの日、一條の大路にそこらあつまりたる人さながらともにほとけとならむと、ちかはせたまひけんこそ、なをあさましく侍れ。</p> <p>——(中略)『古本』と同話有り——</p> <p>院より太宮にきこえさせ給ひける、</p> | <p>今は昔、大齋院と申は、村上の十の宮におはします。御門のいあまたたびく、替はらせ給へど、この齋院は、動きなくておはしませしけり。</p> <p>齋宮・齋院は、佛・經忌ませたまふに、この齋院は、佛・經をさへ崇め申させたまひて、朝ごとの御念誦、欠、せたまはず、三尺の阿弥陀仏に向かひまいらせさせたまひて、法華經を明け暮れ誦ませ給けりと、人申伝へたり。</p> <p>賀茂祭の日、「二条の大路に、そこら集まりたる人、さながらともに仏に成らん」と誓はせ給けるこそ、なをあさましく。</p> <p>——(中略)『大鏡』と同話有り——</p> <p>院より大殿に聞こえさせ給ける。</p> | <p>今昔、大齋院ト申スハ、村上ノ天皇ノ御子ニ御マス。円融院天皇ハ御兄ニ御セバ、其ノ御時ニ齋院ニハ立セ給ヘル也。</p> <p>——『大鏡』『古本』との同話無し、</p> <p>他の記事も無し——</p> |



|   |   |
|---|---|
| <p>ひかりいづるあふひのかげをみてしより、<br/>としつみけるもうれしかりけり<br/>御かへし、<br/>もろかづらふたばながらも、きみにかく<br/>あふひやかみのゆるしなるらん<br/>〔げに、賀茂明神などのうけたてまつりたまへればこそ二代まで、うちつゞきさかへさせたまふらめな。この事「いとおかしうせさせたまへり」と、よの人申しに、前の帥のみぞ、「追従ぶかきおいぎつねかな。あな愛敬な」と申給ける。〕</p>  |   |
| <p>ひかり出づるあふひのかげを見てしかば<br/>年経にけるもうれしかりけり<br/>御返、<br/>もろかづら二葉ながらも君にかく<br/>あふひや神のしるしなるらん<br/>めでたく、心にくく、をかしくおはしませば、上達部・殿上人、絶えずまいりたまへば、たゆみなく、うち解けずのみありければ、「齋院ばかりのところはなし」と、世にはづかしく心にくき事に申つ、</p> <p>——（中略）『今昔』と同話有り——</p> <p>「この世は、めでたく心にくく、優にて過ぎさせ給へるに、後の世いか、」と思ひまいらせしに、ひたぶるに御行ひたゆみなくせさせ給ひて、御有様、あらはに極楽疑ひなく、めでたくて失せさせ給ひしかば、「一定極楽へ参らせ給ぬらん」となむ、入道の中将よろこび給し」と、語り給し。</p> |   |
| <p>タルトヤ<br/>二参り会テ、見テ喜ビ被貴ケルトナム語り伝ヘ<br/>二往生シ給ヒヌラム」トテ、入道ノ中將モ最後<br/>ケルニ、御行ヒ緩ム事無ク貴クシテ、「現ニ極楽<br/>後生ハ罪深クヤ御シマサムズラム」ト人皆思ヒ<br/>「現世ニ微妙ク可咲シクシテ過サセ給ヒニカバ、<br/>——（中略）『古本』と同話有り——<br/>ル。</p>  | <p>其ノ後、齋院ニテ御マス間、世ニ微妙ク可咲ク<br/>テノミ御マセバ、上達部・殿上人不絶ズ参レバ、<br/>院ノ人共モ緩ム事無ク、打チ不解ズシテノミ有<br/>レバ、「齋院許ノ所無シ」トナム世ノ人皆云ヒケ<br/>ル。</p> |

この三書を比較すると、次のことがわかる。冒頭は、『大鏡』「うみをきたてまつらせ給したびのみやこそは、いまの齋院におはしませ」、「古本」「今は昔、大齋院と申は、村上の十の宮におはします」、「今昔」「今昔、大齋院ト申スハ、村上ノ天皇ノ御子ニ御マス」で、『古本』と『今昔』は、『大鏡』にくらべて、ほぼ同文といえる。

その後が続く『古本』前半部は、「もろかづら」の歌で終わるが、ここまで、『大鏡』とはほぼ同文である。一方、『今昔』にはこの話は皆無である。

『古本』後半部は「めでたく、心にく、をかくおはしませば、上達部・殿上人、絶えずまいりたまへば」で始まるが、これは、『今昔』の「微妙ク可咲クテノミ御マセバ、上達部・殿上人不絶ズ参レバ」とほぼ同文である。その後、後半部の話は最後まで『今昔』と同じ内容である。

以上のことから、「大齋院事」は『今昔』「卷第十九本朝付仏法村上天皇御子大齋院出家語第十七」に、『大鏡』「師輔」の「大齋院」の話をはめ込んだ構成になっているということが分かる。

【注①】東大本甲の目録表題では「出家」とある（新大系・P101）。また『今昔』（大系・一

九六三年）の卷十九の校異<sup>535</sup>によると、底本には「家歎と朱補」と書き入れがある（P366）。よって、「家」を入れた。以下、同じ。

## 二 『今昔物語集』との関係

『古本』と『今昔』との同話についてはすでに多くの指摘がある。『古本』（新大系）の脚注を中心に整理した。両書の関係をまとめると、次のとおりである。対応する説話の所在を『古本』は上段に、『今昔』は下段に示す。

|  | 『古本説話集』           | 『今昔物語集』          |
|--|-------------------|------------------|
|  | 1 大齋院事            | 卷19   17         |
|  | 2 公任大納言屏風歌遅進事     | 卷24   33・34      |
|  | 4 匡衡和歌事           | 卷24   52         |
|  | 5 赤染衛門事           | 卷24   51         |
|  | 24 蟬丸事            | 卷24   23         |
|  | 27 河原院事           | 卷27   2・卷24   46 |
|  | 28 曲殿姫君事          | 卷19   5          |
|  | 29 伊勢御息所事         | 卷24   47         |
|  | 31 公任大納言          | 卷24   34         |
|  | 32 道信中将遭父         | 卷24   38         |
|  | 33 貧女孟蘭盆歌事        | 卷24   48         |
|  | 34 或女房完鏡事         | 卷24   48         |
|  | 40 高忠侍事           | 卷19   13         |
|  | 41 貫之赴土左任事        | 卷24   43         |
|  | 44 大隅守事           | 卷24   55         |
|  | 45 安倍中麿事          | 卷24   44         |
|  | 46 小野宮殿事          | 卷24   42         |
|  | 47 興福寺建立事         | 卷12   21         |
|  | 48 貧女蒙観音加護事       | 卷16   9          |
|  | 49 依清水利生落人谷底少児令生事 | 卷19   40・41      |
|  | 51 西三条殿若君遇百鬼夜行事   | 卷14   42         |
|  | 52 極楽寺僧施仁王経験事     | 卷14   35         |
|  | 53 丹後国成合事         | 卷16   4          |
|  | 54 田舎人女子蒙観音利生事    | 卷16   7          |
|  | 56 留志長者事          | 卷3   22          |
|  | 57 清水寺二千度詣者打人双六事  | 卷16   37         |
|  | 58 長谷寺参詣男以蛇替大柑子事  | 卷16   28         |
|  | 59 清水寺御帳給女事       | 卷16   30         |
|  | 60 真福田丸事          | 卷11   2・7        |

|                        |          |
|------------------------|----------|
| 61 伊良縁野世恒給毘沙門下文鬼神田与給物事 | 卷17   47 |
| 62 和泉国々分寺住持艶寄吉祥天女事     | 卷17   45 |
| 63 竜樹菩薩先生以隱蓑笠犯后妃事      | 卷4   24  |
| 64 観音経変化地身輔鷹生事         | 卷16   6  |
| 65 信濃国聖事               | 卷11   36 |
| 69 信濃国沈摩陽観音為人令沐浴給事     | 卷19   11 |
| 70 関寺牛間事               | 卷12   24 |

以上を、『今昔物語集』の巻順にまとめると次のとおりである。

| 『今昔物語集』    | 『古本説話集』話番号                             |
|------------|--|
| 卷3（天竺）     | 56                                     |
| 卷4（天竺付仏後）  | 63                                     |
| 卷11（本朝付仏法） | 60・65                                  |
| 卷12（本朝付仏法） | 47・70                                  |
| 卷14（本朝付仏法） | 51・52                                  |
| 卷16（本朝付仏法） | 48・53・54・57・58・59・64                   |
| 卷17（本朝付仏法） | 61・62                                  |
| 卷19（本朝付仏法） | 1・28・40・49・69                          |
| 卷24（本朝付世俗） | 2・4・5・24・27・29・31・32・33・34・41・44・45・46 |
| 卷27（本朝付霊鬼） | 27                                     |

これにより、次のことがわかる。本集上巻46話中には、『今昔』巻二十四にある話と同じ話が14話あり、巻十九「本朝付仏法」に分類されている話も3話、計17話で『今昔』との共通話が約四割弱も存在する。巻二十四は分類上「本朝付世俗」で、その内容は「医术・陰陽・管弦・詩歌などの術道・芸能譚」であるが、本集上巻にとられている説話は、ほとんどが和歌が中心の逸話である。また、本集第一・二十八・四十話は、『今昔』巻十九「本朝付仏法」に分類され

た話と同じであるが、『今昔』には見られない和歌が詠まれている。また、巻二十七「本朝付霊鬼」の話巻二十四の話と組み合わせ、本集上巻の一つの話に仕立てるなど、『今昔』と本集上巻の関わりは単純ではない。上巻の和歌の詠者は、木樵や童などの庶民階級のものも見られるが、大半は藤原道長を中心とする王朝文化の中心にいた貴族階級関係者である。上巻は概ね和歌説話と認定され、『今昔』などに見られる仏教説話とは異質なものと考えられてきたが、前掲の如く、上巻にも『今昔』との同話が、計17話と四割弱も存在し、登場人物に和歌を詠ませることによって、王朝文化を語る逸話に仕立てている。

次に下巻24話を見ると、『今昔』に関係ある話は19話で、約八割に及ぶ。巻三・巻四の「天竺」関係2話を除く17話は、すべて「本朝付仏法」にある。最も多いのが巻十六の「観音の霊験譚」で7話であるが、あとは2、3話ずつ幾つかの巻にわたっている。

つまり、本集上巻の内容は、大まかにいえば主として藤原氏を中心とした貴族階級の逸話で歌を中核にしており、『今昔』の「本朝付世俗」に分類されたものと同質の王朝文化を語るものといえる。本集下巻の内容は『今昔』の「本朝付仏法」に分類された仏教説話とほぼ同じもので、「観音の霊験譚」が目立つ。すべての説話が、一般によく知られた逸話を語るものであり、人口に膾炙した奇瑞譚を集めたものと考えられる。

### 三 『古本説話集』全体における第一話の位置づけ

以上の考察を踏まえて、『古本』冒頭話「大齋院事」について、その内容を分析する。

前半部は、「大鏡」「師輔」に近く、華やかな賀茂祭を舞台に大齋院と藤原道長との逸話を、めでたい歌の贈答で締めくくる。これは本集上巻全体が、主として藤原氏中心の貴族階級の逸話で占められ、歌を中核にしていることと符合している。すなわち、第一話前半部は、本集上巻全体と同じく、王朝文化を称

揚したものと見える。

後半部は、大齋院退下直前の齋院御所の描写から、退下した選子の出家、薨去、三井寺埋葬までが語られる。この経緯は『今昔』「村上天皇御子大齋院出家語第十七」にあり、仏教説話そのもので、「大齋院事」後半は本集下巻の内容と同じ仏教説話に符合する。

このようにみえてくると、冒頭話「大齋院事」は『古本説話集』そのものを象徴的にあらわしているともいえる。「大齋院事」が第二話以下と異なるゆえんである。つまり、「大齋院事」は本集全体を象徴する話であり、そのために本集冒頭に置かれていると考える。

#### 四 大齋院の人物像

本集上巻には、「大齋院」は冒頭話以外に第九・三十七・四十二・四十三話に取り上げられている。いずれも短い逸話であり、説話数の点では第一話を除けば他の人物と同じ扱いである。公任が4話、道長が3話、その他の人物が1、2話にしか取り上げられていないことを考えると、第一話を除くと「大齋院」の扱いは、公任などの王朝の和歌文化を支えた人物と同じである。「大齋院」の扱いは生涯を語っている第一話が何故このような形で本集冒頭に取り上げられたか、それは「大齋院」がどのような人物であるかによると考える。そこで賀茂齋院としての選子について、他の齋王達と比較して注目すべき点を挙げる。

##### (1) 在任期間が五代五十七年間にわたる。

選子内親王（九六四～一〇三五）は、天延三（九七五）年十二歳の時に齋院に立った。退下理由は本人の疾病によるものであるが、六十八歳まで五十七年にわたり、円融・花山・一条・三条・後一条天皇の齋院としての勤めを果たしている。これに準じるのは齋院の婉子内親王が朱雀・村上天皇二代三十六年間（九三二～九六七）、齋宮の柔子内親王が醍醐天皇三十四年間（八

九七～九三〇）で、選子の在任期間はすばぬけて長い【注①】。

##### (2) 齋院御所で文化サロンが展開され、歌集が編まれた。

大齋院の齋院御所では、『大齋院前御集（984～986）』や『大齋院御集（1014～1018）』が女房たちを中心に編まれたことは疑いないし、大齋院の所望が『源氏物語』成立のきっかけになったという逸話も知られている。これらについては、すでに多くの指摘がある【注②】。また選子内親王は、二十一代集のうち十六歌集の多きにわたって広く入集している。十一世紀初頭から十四世紀末に至るまでの勅撰和歌集に万遍なく歌を採られている大齋院選子は、和歌の達人としてあるいは王朝和歌文化の代表的存在として、広く喧伝され継承され続けたものと判断できよう【注③】。

##### (3) 勤行に励む。

退下後出家し、薨去までの四年間勤行に励むが、これも齋王経験者としては異例のようである。また、五十七年に及ぶ長い齋院在任期間中にも仏教に関心を寄せ、『発心和歌集』所収の五十五首など釈教の歌を残しているほか、仏教信仰に関するさまざまな逸話が残されていることも知られている【注④】。

「選子」は「齋王」のなかで特別な存在であった。つまり、平安朝の和歌文化と仏教文化という二大思潮を一身に兼ね備えた人物として伝えられていると言えよう。これらの点を踏まえて、「大齋院」が作品全体を象徴する人物として、編著者によって選び取られ、その生涯をなぞる形の長文の説話が『古本説話集』冒頭に置かれたものと考えられる。

その方針のもとに、本集の本文は『大鏡』「師輔」の記述を変更している。すなわち、『大鏡』では大齋院選子と大宮（彰子）との贈答として紹介されている二首の和歌を大殿（道長）とのやりとりに変えているのである。本集の逸話の流れの中では、選子が道長に和歌を送り、道長が返歌を送ったとするのが自然

であり、本集の中では、彰子が登場する必然性がない。本集編著者が、いかに周到に考えて、第一話を構成したかを読み取る証左といえよう。

【注①】『平安時代史事典』（OD版・角川学芸出版・二〇一二年）「資料索引編」所載の「賀茂齋院表」・「伊勢齋宮表」参照。

【注②】『無名草子』、『賀茂齋院記』、『古本説話集』第九話に同様の逸話がある。

【注③】大齋院選子内親王の入集勅撰和歌集を表示する。勅撰和歌集の前に和歌集番号をつけて略称した。丸数字は入集和歌数である。

3拾遺①・4後拾遺⑦・5金葉①・6詞花①・7千載①・8新古今①・9新勅撰⑤・10統後撰③・11統古今①・12統拾遺③・14玉葉⑥・15統千載②・16統後拾遺②・17風雅①・18新千載①・20新後拾遺①

【37首】

なお、安西奈保子氏の「大齋院和歌考——出典未詳歌から他の「大齋院御集」の存在を考える——」（平安文学研究会編『平安文学研究』七二輯・一九八四年）は、『玉葉和歌集』一八三二の円融院御製の詞書に「位さらせ給て、むらさき野に子日せさせ給けるに、御せうそこもなく過ぎてさせ給ひにけるを、又の日、齋院より、野べながらひく松かずにあらぬ身はすぎしねのびをわすれやはする」と侍りける御返事に」とあり、選子内親王の和歌（傍線筆者）が入っているので、一首と数えているが、本論文では採らない。また、安西氏は『風雅和歌集』六〇九番歌にも疑問を呈する。

月のくまなき夜、よみ侍りける

六〇九 心すむ秋の月だになかりせばなにをうき世のなぐさめにせむ

橋本不美男氏の「大齋院御集の性格」（『言語と文芸』一九六〇年五月）の中で、この和歌を右近ではないかとする説に従ったものであるが、本論文では確認していないので、とりあえず数に入れる。結果的に、勅撰入集歌数は安西氏と同じく37首

となる。

参考までに、岡崎真紀子氏の『発心和歌集』の詠歌と享受（奈良女子大学日本アジア言語文化学会編「叙説」40・二〇一三年）でも、内訳は明らかではないが選子内親王の勅撰入集和歌数を三十七首とする。

【注④】大齋院が退下後に出家生活にいそしみ、三井寺系の僧侶と深く関わりを持っていたことは、『左経記』等の記録類にも残されていて、すでに本注釈「其の三」補説5で詳述した。しかし、そのみならず、選子は五十七年に及ぶ齋院としての勤めの中でも、仏教に心を寄せ、賀茂齋院という立場でありながらも、当時の時代的風潮であったと考えられる極楽往生を願っていたことは、わずかに語り伝えられている逸話からも明らかであろう。齋王としての立場が、仏の世界から隔てられていて、仏教的観点からは「罪深い」と考えられていたことは、『源氏物語』の記述からも知られていて（漂標巻・朝顔巻・若菜下巻）、多くの指摘もある。『枕草子』にも、「……齋院罪深かなれどもをかし（三巻本・一本二十四段）」とある。

末法思想が浸透し、法華経による西方願生思想が下層にまで及んでいた時代、神仏習合の考え方から神と仏を同じ次元におかず、神も衆生の側において人間と共に仏の教えを仰ぐものという考え方があったと、岡崎知子氏が述べておられる（『平安朝女流作家の研究』「大齋院選子における神仏」法蔵館・一九六七年所収）。

その観点から、大齋院がその在任中に仏道に対する帰依心を持つことは不都合なこととは言えないとはいえ、現実にはなかなか難しいことと思われるが、大齋院選子内親王は仏道への信仰を全うし、世人もそれを驚嘆して受け入れたのであろう。齋院時代の選子が、仏教に関わりを持った事例、あるいは仏教崇敬の気持ちを詠った歌を残した事例を次に挙げる。

| 2   |   |  | 1  |  |  |
|---|---|--|--|--|--|
| 『古本説話集』<br>四十三話   | 『玄玄集』<br>57                                       | 『詞花集』<br>雑下<br>410   | 『賀茂皇大神宮<br>記』  | 『玄玄集』<br>58  | 『拾遺和歌集』<br>哀傷<br>1337  |
| 入道殿御佛事時大齋院被進和哥事<br>いまはむかし、入道殿、京極殿、ひむがしに、阿弥陀堂<br>を建て、そのちに丈六あみだ佛をつくりすゑたてまつり<br>て、三月のつひたちに供養し給。齋院より御文あり。殿いそ<br>ぎて見給へば、かく書、れたり。<br>なをだにもいむとていはぬ事なれば<br>そなたにむきてねをのみぞなく<br>となむありければ、入道殿、泣かせ給て、御返ありけり。 | 前齋院二首天曆皇女也<br>おもへどもいむとていはぬことなれば<br>そなたにむきてねをのみぞなく | 賀茂のいつきときこえける時にしむかひてよめる<br>選子内親王<br>おもへどもいむとていはぬことなれば<br>そなたにむきてねをのみぞなく | 村上第十の宮選子内親王いつきの宮にそなはり給ひし時。世<br>のはかなきことをつくつくとおぼしめしつづけてほしいん<br>をおこしたまへども。もとより佛法僧の三寶をいみ給ふこと<br>なれば。色には出し給はずして。かくぞ詠じ給ひける。<br>思へともいむとていはぬ事なれば<br>そなたにむきてねをのみぞなく | 前の一宮より、亀のかたをつくりて、一眼のなどありて<br>たてまつり給へりければ<br>つみふかきみたらし川のかめなれば<br>法の浮木にあはぬなりけり | 女院八講捧物にかねしてかめのかたをつくりてよみ侍りける<br>齋院<br>女院八講捧物にかねしてかめのかたをつくりてよみ侍りける<br>齋院<br>ごふつくすみたらし河のかめなれば<br>のりのうききにあはぬなりけり<br>齋院 |

| 5  |  | 4  |   | 3  |   |
|--|--|--|---|--|---|
| 『和泉式部集』<br>第十哀傷<br>539                             | 『古本説話集』<br>三十七話  | 『金葉集』 雑下<br>639 (二三奏本)   | 『金葉集』 雑下<br>630 (二度本)   | 『栄花物語』<br>卷第二十七<br>ころものたま                        | 『後拾遺和歌集』<br>雑三<br>1026  |
| また人のさうそうするをみて<br>たちのぼるけぶりにつけて思ふかな<br>いつまたわれを人のかくみん | いまはむかし、うせたる人とかくするけぶりを御らむじて、<br>大きい院、<br>たちのぼるけぶりにつけて思ふかな<br>いつまた我を人のかくみむ | 山寺にこもりてはべりけるに人をとかくするがみえはべりけ<br>ればよめる<br>たちのぼるけぶりにつけておもふかな<br>いつまたわれを人のかくみん<br>和泉式部 | 八月ばかり月のあかりける夜阿弥陀聖人のとほりけるをよ<br>ばせさせ給ひて、さとなりける女房のもとへつかはしける<br>あみだぶととなふるこゑにゆめさめて<br>にしへながるる月をこそみれ<br>選子内親王 | 齋院よりかく聞えさせたまへり<br>君すらもまことの道に入りぬなり<br>一人や長き間にまどはん | 上東門院あまにならせたまひけるころよみてきこえける<br>選子内親王<br>きみすらもまことのみちにいりぬなり<br>ひとりやながきやみにまどはん |

(二〇一九年十月二日受理)